新 潟 市 報 道 資 料

令和５年７月２０日

報 道 各 位

新潟市文化スポーツ部歴史文化課

国の重要無形文化財「日本舞踊」の保持者の一人として市山七十郎氏が認定されます

令和５年７月２１日（金）に、国の文化審議会（会長　佐藤（さとう）　信（まこと））が開催され、**「日本舞踊」を国の重要無形文化財へ指定**するのに併せ、市内在住の**川田純子氏（芸名　市山七十郎）を含む５６名を保持者として認定**するよう、文部科学大臣に答申する予定です。指定は、答申後に行われる官報告示をもって正式決定となります。なお、**本市において重要無形文化財の保持者の認定は初めて**となります。また、「日本舞踊市山流」は平成１５年７月１６日に新潟市無形文化財（芸能）に指定されています。

【重要無形文化財の指定及び保持者の団体の構成員の認定】（総合認定）

重要無形文化財	保持者	うち市内在住の保持者
日本舞踊	日本舞踊保存会会員　５６名	氏名　川田（かわだ）　純子（すみこ） 芸名　市山（いちやま）　七十郎（なそろう）

※別紙概要資料あり

日本舞踊市山流　演目「うしろ面」（提供：市山七十郎氏）

＜お問い合わせ先＞
新潟市文化スポーツ部歴史文化課
企画・文化財担当（担当：小松・田部）
電話：０２５－２２６－２５７５（直通）
E-mail：rekishi@city.niigata.lg.jp

※本件に対するお問い合わせは２１日(金)１７時までにお願いします。

○今回の指定の概要

文化財の種類	重要無形文化財
文化財の種別	芸能
文化財の名称	日本舞踊
保持者	日本舞踊保存会会員　５６名（立方４０名、地方１６名）
概　　要	江戸・東京の歌舞伎舞踊や、主に座敷舞として発展した京阪の京舞及び上方舞から構成された我が国の伝統的な舞踊。役柄に合わせた衣装を付けて行う上演のみならず、そうした衣装を排し、より踊り手の技芸に表現の重点をおいた素踊りも重要な上演形態となるなど、歌舞伎を離れた独自の歴史や芸術上の表現を有する。歌舞伎役者や劇場振付師等から舞踊を習得し、一般の子女に伝承する役割を果たした舞踊師匠には、女性が多く活躍した。江戸や京阪において多くの流派が誕生し、明治以降は家元・宗家や舞踊師匠のなかから舞踊家として劇場の舞台に立つ人々も現れ、より芸術的に洗練されて現在に至る。

※ 立方　　…　日本舞踊で立って舞い踊る者
※ 地方　　…　日本舞踊で伴奏音楽を演奏する人々
※ 素踊り　…　日本舞踊の上演形式で、舞踊用の衣装を付けずに踊る踊り

○市内在住の保持者について

保持者（立方）　川田　純子　氏（芸名　市山　七十郎）

日本舞踊の流派の一つである市山流の宗家７代目であり、日本舞踊保存会会員として、国の重要無形文化財「日本舞踊」の保持者となる。

平成６年に、後ろに狐の面を付け、尼と狐を演じ分けるという難易度の高い「うしろ面」を演じ文化庁芸術祭賞を受賞した。

○日本舞踊市山流について

市山流は１８世紀半ばに大坂の役者市山助五郎の弟子であった市山七十郎が振付師として一流を興したことに始まり、江戸末期に３代目市山七十郎が新潟を訪れ、のちに４代目となる市山七十世に舞踊の指南を行った。明治前期に市山七十世が宗家４代目となり、以降新潟を根拠地とし女流舞踊家によって継承される。

市山流が伝える舞踊は上方風で古格を伝えるとされる。また、全国に２００以上ある流派のうち、地方に宗家があり、かつその地で１４０年以上の歴史を刻んできた例は他にない。舞踊を究め、多くの古町芸妓を指導するなど、今に伝わる新潟花柳界の芸風の礎を築き、その発展の中心的な役割を果たしてきた。また、平成１５年に「日本舞踊市山流」として新潟市無形文化財（芸能）に指定されている。

【参考】

○無形文化財

演劇、音楽、工芸技術、その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いものを「無形文化財」という。無形文化財は、人間の「わざ」そのものであり、具体的にはそのわざを体得した個人または個人の集団によって体現される。

○重要無形文化財保持者の認定の方式

区分	認定の対象
各個認定	重要無形文化財に指定される芸能を高度に体現できる者または工芸技術を高度に体得している者（いわゆる「人間国宝」）
総合認定	２人以上の者が一体となって芸能を高度に体現している場合や２人以上の者が共通の特色を有する工芸技術を高度に体得している場合において、これらの者が構成している団体の構成員
保持団体認定	芸能または工芸技術の性格上個人的特色が薄く、かつ、当該芸能または工芸技術を保持する者が多数いる場合において、これらの者が主たる構成員となっている団体